

令和5年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について

1 調査目的

英語教育に係る具体的な施策の状況について調査し、今後の施策の検討に資するとともに、各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てる。

2 調査実施基準日 令和5年12月1日

3 調査対象 全ての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校

4 本県等の結果の概要

- ・政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、独自の教育施策を推進している。ここでは、岡山県全体の教育の状況を示すため、岡山市における結果も掲載する。
- ・*岡山県は、文部科学省から発表があった岡山市を除く岡山県の数値である。

○英語担当教員の英語力の状況

英検準1級以上等を取得している教員の割合(%)

| | | R4 | R5 |
|-----|------|------|------|
| 中学校 | 全国 | 41.6 | 44.8 |
| | *岡山県 | 41.6 | 42.8 |
| | 岡山市 | 40.7 | 40.7 |
| 高校 | 全国 | 72.3 | 80.7 |
| | 岡山県 | 83.2 | 90.1 |

・英検準1級はCEFR B2 レベル相当

○生徒の英語力の状況

中3：英検3級以上相当と思われる生徒の割合(%)
高3：英検準2級以上相当と思われる生徒の割合(%)

| | | R4 | R5 |
|----|------|------|------|
| 中3 | 全国 | 49.2 | 50.0 |
| | *岡山県 | 48.1 | 49.3 |
| | 岡山市 | 44.0 | 53.1 |
| 高3 | 全国 | 48.7 | 50.6 |
| | 岡山県 | 51.6 | 51.9 |

・英検3級はCEFR A1 レベル相当
・英検準2級はCEFR A2 レベル相当

○授業における英語担当教員の英語使用状況

教員が発話の半分以上を英語で行っている学校の割合(%)

| | | R4 | R5 | | | R4 | R5 | |
|-----|------|------|------|--------|------------|------|------|------|
| 中学校 | 全国 | 74.4 | 68.4 | 高 校 | 全学科 | 全国 | 46.1 | 39.9 |
| | *岡山県 | 76.2 | 92.4 | | | 岡山県 | 80.5 | 68.9 |
| | 岡山市 | 92.1 | 92.1 | | 普通科 | 全国 | 47.0 | 40.4 |
| | | | | | 国際関係に関する学科 | 岡山県 | 81.5 | 73.5 |
| | | | | | | 全国 | 81.1 | 72.6 |
| | | | | | 専門学科・総合学科 | 岡山県 | 100 | 100 |
| | | | | | | 全国 | 40.8 | 35.3 |
| | | | | | 岡山県 | 78.3 | 59.8 | |
| | | | | | 全国 | | | |

○児童の英語による言語活動の状況

授業における児童の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合〔第5, 6学年〕(%)

| | | R4 | R5 |
|------|--|------|------|
| 全国 | | 91.9 | 94.4 |
| *岡山県 | | 92.2 | 95.1 |
| 岡山市 | | 89.5 | 91.3 |

5 令和5年度の取組とその結果

○英語担当教員の英語力の状況

- ・検定料助成制度等により、英語担当教員の英語力向上に対する意識が高まり、個人的な自己研鑽の取組に繋がった。その結果、教員の英検準1級以上等の取得率は、高校では前回に引き続き全国平均を上回り、中学校では上昇傾向ではあるが全国平均に届かなかった。（中・高）

○生徒の英語力の状況

- ・中学校では、授業における「生徒の言語活動の割合」や「教員の英語の発話量」が充実している学校ほど生徒の英語力が高いことから、県教委主催の研修等で、これらに重点を置いて授業改善を図るよう働き掛けた結果、前年に引き続き英検3級以上相当と思われる生徒の割合は増加しているものの、目標とする数値には届いていない。（中）
- ・高校では、研修協力校による公開授業等を行い、生徒の実態に応じて4技能を統合した活動を重視し、生徒の発信力を強化するための取組を県内に広めることで授業改善を進めているところであるが、英検準2級以上相当と思われる生徒の割合は、全国平均を上回っているものの、目標とする数値には届いていない。（高）

○授業における英語担当教員の英語使用状況

- ・英語を実際のコミュニケーションの場面とするためには、教員自身が「英語で授業を行う」実践力を身に付けることが必要であり、そのことを研修等で指導した結果、中学校・高校ともに教員の英語使用状況が全国平均を上回った。（中・高）

6 今後の取組

○英語担当教員の英語力の状況及び授業における英語使用状況

- ・教員の英語力と英語指導力の向上を図るため、研修協力校に指定した学校との連携及び英語教育推進リーダーによる教員研修等を実施し、英検準1級以上等の取得率を高めるとともに、授業中の英語使用状況の一層の改善に努める。（中・高）

○生徒の英語力の状況

- ・県内の中学3年生を対象に外部検定試験の受験機会を提供し、生徒が自身の英語力を客観的に把握することで学習意欲の向上を図る。（中）
- ・各研修等において、教員が4技能をバランスよく育む言語活動を意識した授業を展開することで、生徒の授業における言語活動の時間を確保し、生徒の英語による発話量を増加させ、生徒の英語力を高めるようにする。また、放課後等授業以外にもALTと英語で話す取組を充実させるなど、生徒が日常的に英語に触れる機会を増やす。（中・高）

○1人1台端末の効果的な活用

- ・研究校において英語の学習者用デジタル教科書を主体的な学びや個別最適な学びに活用する研究を実施しており、その成果等について授業公開、協議等を通して県内に広く発信・普及することで、生徒の英語4技能を総合的に育成する。（中）
- ・個別最適な英語学習を充実させ、発信力をさらに強化するため、AIを用いた教材の効果的な活用についての研究を行う。（高）
- ・ICTを活用した姉妹校交流など海外の学校等との交流を促進し、生徒の英語学習の意欲を喚起する。（中・高）